

# 名古屋の街と博覧会

— 都市発展の軌跡 —



池田 誠一

## 【12】名古屋と博覧会…都市の変身

### 1 名古屋の三大博

博覧会は一過性のイベントです。したがって、終わってしまえば後片づけをして一件落着になります。しかし大きな博覧会は、それによって都市の形成にも影響を与えるこ

とがあるのではないのでしょうか。

これまで11回かけて、名古屋が開催した大きな博覧会を見てきました(図1)。なかでも名古屋という都市に影響を与えたと考えられるのは、次の3つだったといっていでしょう。

①第10回関西府県連合共進会(→共進会)

図1 当連載で紹介した名古屋の博覧会

時代	名称	時期	期間(日)	入場者(万人)	会場	面積(ha)	契機	当連載回数
明治	名古屋博覧会	M 4	5	—	大須総見寺	—	初	第1回
	名古屋博覧会	M 7	30	—	東別院他	—	—	同
	<b>第10回関西府県連合共進会(共進会)</b>	<b>M43</b>	<b>90</b>	<b>263</b>	<b>鶴舞公園</b>	<b>30</b>	<b>(開府300年)</b>	<b>第3回</b>
昭和	御大典奉祝名古屋博覧会	S 3	70	194	鶴舞公園	8	昭和天皇即位	第4回
	大名古屋土地博覧会	S 3	31	—	同	—	—	同
	<b>名古屋汎太平洋平和博覧会(汎太博)</b>	<b>S12</b>	<b>78</b>	<b>480</b>	<b>港明町</b>	<b>50</b>	<b>名古屋駅</b>	<b>第6回</b>
	名古屋城博	S59	58	192	名古屋城	28	再建25周年	第7回
平成	ワールドインポートフェア なごや'85	S60	25	188	金城ふ頭	15	輸入促進	同
	<b>世界デザイン博覧会(デザイン博)</b>	<b>H 1</b>	<b>135</b>	<b>1,518</b>	<b>名古屋城 白鳥 名古屋港</b>	<b>19 26 11</b>	<b>市制100周年</b>	<b>第9回</b>
	2005年日本国際博覧会(愛知万博)	H17	186	2,204	長久手 瀬戸	158 15	—	第11回

(注) 太字は「三大博」としたものの。カッコは略称

- ② 汎太平洋平和博覧会(→汎太博)
  - ③ 世界デザイン博覧会(→デザイン博)
- もちろんその後、別格の、
- ・ 2005日本国際博覧会(→愛知万博)

がありました。しかしこれは市域外であり、国の博覧会でもあって、テーマの選定も事業の実施も国に支配されます。その意味では、それ以外の①～③が名古屋にとっての「三大博」といえそうです。これら三大博が名古屋に及ぼした影響については、これまでも触れてきました。しかしながら、「都市と博覧会」を考えるうえで、もう少し全体的な分析を試みる必要があります。

今回は、これら三大博が名古屋に及ぼした意味を考え、さらに博覧会の将来を展望して、最終回のまとめにしたいと思います。

## 2 博覧会の意味

### (1) 三大博のねらいと成果

3つの博覧会はどのようなねらいで行われ、どんな成果があったのでしょうか。整理してみます。

①番目の明治43年の「共進会」は、前の回の三重県会場で愛知県の開催が決まりました。が、名古屋市はその前から開府300年の記念祭を準備中で、県と市で事前に相談がなされていたと考えられます。博覧会がねらいとしたところは、名古屋近代のアピールです。産業が成長し、人口も3大都市目だったのです。

そして、260万人を集客するなど、国主催の博覧会並の成果を上げることができました。

②番目の昭和12年の「汎太博」は、そのきっかけは東洋一とされる新しい名古屋駅の完成でした。ところが、当時の大岩市長には十分にその気があり、提言を受けるや即、県、経済界を巻き込みました。ねらいは市の重工業都市への転換です。そのため会場は港の後背地、街と港の中間が選ばれ、新しい中川運河が活用されました。同時に、時局に抵抗し「汎太平洋の平和」を目的に掲げたのです。

そして29ヶ国の参加を得て、入場者数も

480万人という、戦前の我が国トップといえる国際博覧会になりました。

③番目の平成元年の「デザイン博」は、名古屋市制100周年を記念して企画されました。名古屋新世紀を掲げ、遅れていた名古屋の産業のソフト化のため、デザインをテーマにしたのです。会場は、南から北に分散会場とし、街の南北軸再生をねらいました。

そして、会期中、延べ1500万人を越す入場者を集めた他、各方面から街がきれいになったという評価を得たのです。その後、名古屋はユネスコの「創造都市」に認定されるなど大きく変わるようになりました。

### (2) 三大博の意味

以上のように見てくると、三大博は名古屋の都市づくりに重要な節目になったことが分かります。ひとつは、これらの博覧会が名古屋の性格を変えるきっかけになっていることです。①では近代都市への仲間入りを果たし、②では重工業の都市への変身を志しました。そして③では産業や都市のソフト化に歩を進めたのです。

いまひとつは、都市の形成の面でも節目をつくったことです。①では市東部への市街拡張を、②では港の後背地、中川運河を生かした重工業用地開発が試みられました。そして③では市の南北軸の再生に光を当て、博覧会をきっかけに南北軸の要・金山総合駅が完成しました。

これらから分かることは、名古屋は博覧会を契機にして都市の性格や構造を変える節目をつくっています。博覧会の開催に合わせて都市の課題を整理し、その課題解決のために知恵とエネルギーを集中させているのです。名古屋の三大博は、数十年おいてバラバラに企画された3つの博覧会ではありますが、名古屋という都市を、順番に、大きく変えていたのです。

このような都市の変革は、他の手段で可能だったのでしょうか。そこには「博覧会」というものの特徴がのぞいています。

### (3) 博覧会の力

博覧会は、当初は「見世物」から始まりました。その印象が「博覧会」という言葉に訳されました。しかしその後、規模が大きくなるとともに展示物の評価をする「産業振興」に変わりました。そして今日では地域を活性化させる「地域振興」へと移り、今後も変わる可能性があるのです。

では、「博覧会」という概念を成立させているものは何でしょうか。それは次のようなものではないでしょうか。

- ①仮設である：一過性のもの
- ②期間がある：数十日から数か月
- ③規模がある：「催し物」を越える
- ④テーマがある：一つの方向を向く
- ⑤地域がある：概ね市町村位の範囲

したがって、①で展示場やテーマパークと違うこととなり、②によって祭りが外れ、④ではレジャーランド等と区別されます。博覧会は、他とは違う独特の事業になるのです。これらの特徴を見ると、都市を変えるのにはぴったりの事業であることが分かります。博覧会は、都市が、ある課題に対して、数年間、集中して取り組む大イベントなのです。

しかし、それだけでは博覧会は成功しません。成功させるには、

- ⑥地域が一体で解決したいテーマの選定
- ⑦それに対する地域のエネルギーの蓄積
- ⑧その行動にふさわしいタイミング

が必要でしょう。一言でいえば、博覧会とは、チャンスを見つけて都市を変革させるために貯まったエネルギーを集中して爆発させることと云えるかもしれません。

### (4) 次のステージへ

よく、「もう博覧会の時代は終わった」と云われます。しかし以上のように考えると、都市は、何十年かに一度、「博覧会もどきもの」を行い、それを使って都市の性格や構造の変革にチャレンジすることが有効のように思えます。

そのように考えると、今後、名古屋にはい

つごろどんな博覧会ができるでしょうか。20～30年というスパンを考えるとあと10年位先です。そこで頭に浮かぶのは、2027年のリニアの中央新幹線開通です。東京から名古屋まで。開業日の定めにくいプロジェクトではありますが、これを使えば名古屋が大きく変わるチャンスになることは間違いありません。

名古屋圏はこれまで「中央」都市というものにこだわり、JR東海や中部空港には「セントラル」という英字名を冠してきました。リニア中央新幹線によって、まさに名古屋圏はその中央に躍り出ることになります。2027年の博覧会は、その出陣を祝うものにできるのではないのでしょうか。

## 3 紀行 広小路と久屋大通

### … 名古屋都心の大博覧会？ …

あと十数年後、名古屋で博覧会を開くとしたらどんなところが会場に想定できるのでしょうか。もちろんコンセプトも技術も変わっているでしょうから想像は困難です。しかし、おそらくは郊外の広大な敷地で行うものではなく、IC技術を使いつつ都市型の博覧会になるのではないのでしょうか。

そう考えると思いつくのが、名古屋の広い「道路」という財産です。これを生かした博覧会はどうなるか。最終回の紀行は、未来の博覧会を夢見て、名古屋駅から広小路通を歩いて久屋大通へと歩いてみることにします。

#### 〈名古屋駅から〉

平成になって名古屋駅の東側は大きく変わ



リニア駅の地上からみた駅東。  
右手前では工事が始まっている

りました。地下鉄の桜通線ができ、JRのツインタワーに始まる高層ビル群の建設。その勢いはまだ続いています。そして2027年にはリニア中央新幹線の新駅と。したがって、その時の博覧会は、是非、この新しい駅前からスタートしてほしいのです。

駅前を南に、笹島交差点に出ます。広小路通は、明治19年、初代の名古屋駅が出来た時につくられ、まもなく路面電車が走り出しました。この辺りにまず博覧会の広小路会場のゲートが欲しい所です。広小路通にはマイカーを締め出し、公共交通と人だけの、いわゆるトランジットモールを作ろうという構想があります。博覧会はまさにそのモールで行われることになります。

しばらく進むと柳橋で幹線道路と交差します。少なくとも博覧会の時は、これらの幹線道路は歩道橋で通過したいところです。堀川を渡り、伏見に向かいます。この広小路には、屋台や路面電車を復活させられないかという提言もあります。これも博覧会の課題です。

伏見を越えると本町通も近く、江戸時代からの広小路になります。名古屋には道路の全幅員を使ってパレードをする通りがありません。しかしここをモール化すればそれが可能になります。博覧会では両側の商店も参加してもらいましょう。すぐ栄の交差点です。

#### 〈久屋大通へ〉

栄交差点東は博覧会の久屋大通会場のゲートでしょう。南北に2キロほどつづく百米道路は、戦災復興の一環で防災道路としてつくられました。そしてその空間が公園になり、防



笹島交差点からみた広小路通。  
この付近にゲートが欲しい



長者町通交差点の広小路通。  
江戸時代はここから東が広小路だった

災面に支障しない地下に地下街や地下鉄が建設されました。規模がパリのシャンゼリゼ通と同じで、商店街が姉妹提携をしています。



栄交差点から東を。久屋大通り会場へ



広小路の北では屋台が復活していた



久屋大通の景観



クリスマスイベントでメリーゴーランドも。博覧会が始まっている？



南の突き当りにある若宮大通とランの館

博覧会会場は通りの南北全区間でしようが、ここでは南に進みます。すぐバスターミナルですが、これは道路の両サイドに移転して、通りの歩道を全区間連続させねばなりません。いくつかのイベント広場は、耐火パビリオン等配置の機会に新しい形に再構成するチャンスです。突き当たりは同じ百米道路の若宮大通、そしてランの館です。博覧会会場は若宮大通に延ばすこともできます。ランの館付近も博覧会ならば、国立施設の誘致を視野に再構成を考えてもいいところかもしれません。

\* \*

2027年、中央リニア新幹線の開業に合わせて、名古屋がもう一段アップする博覧会。その会場を想定して広小路、久屋大通と歩いてきました。名古屋の都市の売りはこの「都心の立派さ」と「道路という財産」です。ぜひリニューアルして、次の世代に有効に生かすことを考えたいものです。

## 4 都市を変える

都市は生きています。そして成長しています。そこには変化が必要なときがあります。時として大きく変身しなければならない時もあるでしょう。たとえば、都市の性格を変えよう。産業の構造を変えよう。市民の意識を革新しよう。昆虫なら「脱皮」という段階です。そのときに有効な手段が博覧会なのです。

名古屋は、昔から「博覧会太り」をするといわれてきました。博覧会をすることによって、その前よりも大きくなっているということでしょう。明治43年の関西府県連合共進会では名古屋は近代都市へと脱皮しました。昭和12年の汎太平洋平和博覧会では、産業構造の重工業化の節目をつくりました。平成元年の世界デザイン博覧会では、そのソフト化へ舵を切り、街をデザイン都市に変えたのです。その見事な変身は、おそらくは博覧会以外では成しえなかったのではないのでしょうか。

完

### — 連載を終えて —

12回にわたって名古屋を博覧会という視点からながめてきました。そこに見えてきたのは、名古屋という都市の博覧会利用の見事さです。名古屋人は「まじめ」でイベントを遊びとは考えず、また、よく云われるように「ハレのときには頑張る」という習性も生きたようです。

連載中に、名古屋が、デザインでユネスコの「創造都市」に認定されたことを知りました。今はマイナーですがいずれ世界遺産のように取り合いになるかもしれません。

なおこの連載では、岡本政広さんにお世話になりました。ありがとうございました。連載しながら、デザイン博、愛知万博と、自分が係わってきた博覧会を、懐かしく思い出しました。

池田 誠一

〈次回以降は「なごや 路面電車復活(仮)」です〉